



発行 原発ゼロの会・大阪
NO. 13
2018年 1月24日
TEL06-6949-8120 FAX06-6949-8121

なくせ！原発 再稼働はんたい！ 3・10おおさか大集会2018 ぜひ、ご参加ください



福島原発事故から7年。いまだ事故は収束せず、被災者の方々には自宅に帰れない苦しみと不安が続いています。一方、いま経済産業省で議論されている、「エネルギー基本計画」は2030年度に必要な電力の20~22%を原発で賄う目標を維持するなど、原発ゼロを要求する国民全体の思いと逆行しています。

世界はどうでしょうか。福島第一原発事故以降、ドイツ、台湾、韓国など脱原発に舵をきる国が相次ぎ、日本においても節電や省エネルギーの取り組みが広がっています。また、太陽光発電などの普及により、再生可能エネルギーの割合は増えています。

今後のわたしたちの安全安心な暮らし、エネルギーのあり方を方向づけるのは、わたしたちの福島への強い思いと自然エネルギーを実践する取り組みにかかっています。

集会では、福島から伊東達也さんに「福島のいまと原発住民運動の課題」と題して、最新の福島の現状をお伝えいただくとともに、午前中は、自宅マンションのベランダでもできる太陽光パネルの実践紹介や、小学生高学年を対象にした、ペットボトルでのソーラーカーづくりなど親子で楽しめる工作のコーナーなども準備しています。見て、さわって、作って！ぜひ体験型大集会にご参加ください。

なくせ！原発 再稼働はんたい！
3・10おおさか大集会
2018
福島原発事故から7年

9:30~12:00
自然エネルギー推進交流会
○各展示コーナー多数
○小学生高学年 必見！
ペットボトルソーラーカー手作り教室
(材料費 1,500円)

日時
3月10日(土)
9:30~16:00
集会終了後、大阪市役所前までパレード

13:30~16:00 講演と交流
メイン講演
「福島のいまと
原発住民運動の課題」
~原発住民運動の歴史にもふれて~
原発問題住民運動全国連絡センター
筆頭代表委員 **伊東達也氏**

参加費無料・どなたでもご参加できます
第1部
9:30~12:00
自然エネルギー推進交流会
エルおおさか 7階 会議室708
第2部
13:30~16:00
メイン講演
各地域・圏域の原発ゼロの会から
エルおおさか 2階 エルシアター



主催 **原発ゼロの会・大阪**
事務局 大阪から公害をなくす会/全大阪労働組合総連合
連絡先 大阪から公害をなくす会
〒540-0026 大阪市中央区内本町2-1-19
内本町松屋ビル10 370号 TEL 06-6949-8120
<http://genpatsu-zero-osaka.com>
e-mail: info@genpatsu-zero-osaka.com



自然エネルギー交流会☆
初めての人も、子どもさんも、まだまだある。大阪でできること。実際、見てさわって作って。
9:30~12:00 本館・7階708号室

- 太陽光発電を実践しよう**
○自宅の屋根を使ったエネルギーを売電
○マンションでもできる！ベランダ発電
○災害時雨水太陽光発電装置
- 経験を聴こう**
○国の補助で設立した市民共同発電所
○ソーラー発電・電力小売販売事業の取り組み
○「電力会社を、発電からほかの電力会社に切り替えました」
- 小水力発電にも注目**
○小水力発電を種類とパネルで紹介
○千早川で小水力発電を実践しました！
- 風力も！都市型用の小型風力発電を紹介します。**
- なんでも利用できる！**
○水質バイオマス
○雨水
- 電気やエネルギー使用を抑える工夫**
○省エネ生活・住宅
○高効率の省エネグッズ
- ペットボトルでソーラーカーづくり体験！**
時間 9時30分~12時
対象：小学校高学年(4~6年)
※ナイフを使いませう。
材料費 1,500円

なくせ！原発 再稼働はんたい！3・10おおさか大集会 2018



『原発ゼロの会・大阪』は、“大阪府”と“関西電力”に要望しています

【大阪府への要請項目】

1. 大阪府民のくらしと命を守る立場から、関西電力に対し、原発再稼働ではなく、自然・再生エネルギーを柱とする経営方針に転換するよう要請すること。
2. 福島第一原発事故の被害者への支援と大阪への避難者への支援を強化するとともに、国に対しても強化を働きかけること。
3. 福島第1原発事故の処理費用(廃炉だけでなく賠償も含む)や原発の維持・廃炉費用は、当該電力会社と国が責任を負い、「新電力」に負担させることのないよう、国に働きかけること。
4. 国に対し、自然・再生エネルギーの活用と推進を具体的に働きかけること。そのために、大阪府における自然・再生エネルギー活用状況を調査し、促進すること。
5. 防災上の観点からも、大阪府として福井の原発が過酷事故を起こした際のシミュレーションを行い、対応方針を具体的に策定するとともに、原子力発電の

問題と危険性を府民に周知すること。

6. 福井県の原発で過酷事故が起き、琵琶湖が放射性物質に汚染された場合の府民の飲料、生活水の確保をすすめること。

【関西電力への要請項目】

1. 関西電力は、福島第一原発の事故を教訓にし、脱原発・事前エネルギー推進を貴社の企業理念・経営計画に明記し、内外に宣言して実行すること。
2. 現在稼働している高浜原発などを直ちに停止すること。原発の再稼働は行わず、廃炉に向けた作業をすすめること
3. 関西電力としても太陽光や風力発電を積極的に推進し、また、火力発電はLNGコンバインド・サイクル発電など高効率・低CO2発電に切り替えること
4. 民間での太陽光や風力、バイオなどによる発電の買い取りと送電を誠実に行うこと

「原発と核兵器」

核兵器をなくすことと原発をなくすことは極めて深い関係があります。

広島、長崎への原爆投下とビキニ環礁での核実験被害に対して「核兵器をなくせ」と沸き起こった国民世論を逆手にとって、アメリカは「核の平和利用」と称して日米原子力協定を押し付け、日本政府も原子力発電所の導入を認めてしまいました。

原発と言っても、発電に使われる原子炉は、もともと核兵器用のプルトニウムをつくる過程でつくられたものであり、「平和利用」などとんでもない話して、軍事の「民需転用」に他なりません。

今や日本は、潜在的核兵器保有国と言われ、すで

大阪原水協 理事長 岩田 幸雄

に核兵器に換算すると6~7千発分にもなる48トンものプルトニウムを保有しているといわれています。

そして日本政府は、昨年採択された「核兵器禁止条約」に対して北朝鮮の脅威を口実に、アメリカの「核の傘」に依存するという核抑止力論に固執し、この条約に反対して国民に対する裏切りを行っています。核兵器も原発も「根はひとつ」です。どちらも人類と共存できません。

ヒロシマ、ナガサキ、フクシマの悲劇を忘れない！核兵器も原発もない平和で安全な世界の実現のために、私たち草の根からの運動を一層強め、世論をひろげ政治を動かしましょう。(以上)

11・26さよなら原発八尾・柏原行動をふり返って

原発ゼロの会八尾・柏原は、東京電力福島第一原発の事故があった年の翌年、有志によって結成されました。結成以降さらに広い市民に呼び掛けるため、「さよなら原発八尾・柏原行動」として実行委員会をつくり毎年春と秋の2回、集会とパレードを行ってきました。

今回の行動は8回目の行動となりましたが、当初は10月22日(日)の予定で準備を始めました。しかし、突然行われた総選挙の投票日となったため相談の結果11月26日(日)に変更しました。

特に今回は、大阪14区で市民と野党の共闘が大きく広がったこともあり、実行委員会では、集会でのスピーチには「原発をなくそう」の一点で協力できる野党の方々に呼びかけること、これまで以上に幅広い市民に呼び掛けることを確認し準備に入りました。実行委員からの呼びかけで社民党、日本共産党、新社会党(当日は府本部大会のためメッセージ)、民進党(八尾市議員)の4政党がそろい踏みになり、それぞれの立場から原発に反対する決意が示されました。多彩な顔触れの市民からも「原発なくそう」の思いが語られ、更に広く市民に訴えて行こうとの決意が示された集会となりました。【文 小林 松久】



千早赤坂のマス釣り場で小水力発電の実験 ～金剛・葛城自然エネルギーの会～

藤井寺から千早赤坂村まで南河内の5市2町1村を対象とする金剛・葛城自然エネルギーの会(2015年結成)は、自然エネルギーの普及と省エネを大きなテーマにして活動していますが、地域の特性に考慮し手始めの事業として小水力発電に取り組んでいます。

水源の確保では金剛山ロープウェー乗り場の下流にある千早川マス釣り場の経営者にご協力をいただき、大小10数個の河川かけ流しマス釣り池の一番川下の団体池を実験場としています。発電機はニュージーランド製のペルトン型水車発電機で、上下2カ所から水の羽根に水を当てて水車を回転させ、水車と表裏一体になった発電機で発電する仕組みになっています。

12月の実験では発電機(水車)からの電流とバ



右側奥の黒いのがペルトン型水車発電

ッテリーからの電流を計るため2個の電流計を取り付け発電量を計測しようとした

ましたが、突入電流によって電流計が壊れたり、針が振り切れたりして発電量がどれくらいあったかはつかめませんでした。

今後の課題では、突入電流に対処した丈夫な制御回路にすること、そして、PWM制御かMPPT制御にするための基礎知識を勉強すること、などが明らかとなりました。たかが300～600Wの電

力を自然の中からエネルギーとして取り出す取り組みですが、なかなか大変なことであることが実感できました。(丹羽)

八尾市でおひさま市民共同発電所1号機を建設～自然環境会議八尾～

NPO法人自然環境会議八尾は、地域環境を守り改善をめざし、持続可能な循環型社会の建設への貢献事業により、安心して住み続けられるまちづくりを目的として脱原発・脱化石エネルギーで、地球温暖化対策をめざし、地域資源の循環型で持続的な地域社会の構築をめざして活動しています。具体的には、菜の花プロジェクトの活動、身近な自然エネルギーの利活用などの活動で、地域・市民に自然エネルギー普及啓発活動を進めてきました。

今回、大阪府の「大阪府地域環境活動を広げる府民共同発電事業補助金(100万円)」を受け、八尾市山城町の「ふじ第2保育園」に、八尾で初めての「おひさま市民共同発電所」の建設が決まりました。発電規模は、6.48KWで、3月末完成、4月から稼働の予定です。

地球温暖による異常気象や福島原発事故と直面し、環境負荷が少なく、より安全な再生可能エネルギー推進を願う声が高まっています。政府も再生可能エネルギー発電の固定価格買取制度を実施しています。

自然エネルギー市民の会の協力のもとに、私たちも当NPOの会員や市民のみなさんから寄付や出資協力金を募り、地域太陽光発電所を設置し、地域のみなさんとエネルギーについて考え、持続可能な社会をめざしたいと思って取り組んでいます。(宮川)

2018年度自然エネルギー連続講座の日程と内容決まる

今年の自然エネルギー連続講座の日程と内容が下記のように決まりました。詳細は3.10集会で

開催日	主なテーマ・内容内容	講師・見学先
5月23日(水) 第1講	進展する世界の自然エネルギーと日本 ～第5次「エネルギー基本計画」にふれて～	和田 武 さん (自然エネ市民の会代表)
6月20日(水) 見学会	①3カ所目を設置して寝屋川市民共同発電所 ②府の補助で設置した八尾・おひさま市民共同	ねやがわ市民の会 自然環境会議八尾
7月25日(水) 第2講	①イモ発電。その原理と展望 ②食品残渣などを活用したバイオ発電	鈴木 高広 さん(近大) 高橋 正樹 さん(みらい電気)
9月20日(木) 見学会	環境モデル都市・西粟倉村の 太陽光・小水力・バイオなどの取り組み	岡山県・西粟倉村
10月24日(水) 第3講	①いずみ市民生協の発電事業と電力販売事業 ②交野市の「環境基本計画」とその具体化(予定)	藤山 聖彦 さん(い市民生協) 未定
11月28日(水) 第4講	①自然エネ推進と地域経済のつながり ②知って得する使える制度。私たちのエネ政策	井内 尚樹 さん(名城大) ゼロの会・エネルギー部会

自然エネは出来るところから始めることが大切

マンションのベランダで発電する試作機が完成

きっかけは見学会参加者の声

原発ゼロの会・大阪は、昨年から自然エネルギー連続講座を開始し、講座とともに視察見学会にも積極的に取り組んできました。そんな見学会の帰りのバスの中で参加者から「太陽光発電をしたいが、マンションなので屋根に乗せての大規模な太陽光発電は無理。せめてベランダで発電し、ちょっとした電力に使えたらいいなと思う」という感想が出されました。

エネルギー部会では「自然エネルギーの推進はとにかく出来ることから始めること。経験を重ねることによってだんだんと自信がつく。第一歩は始めることが大事」との立場でこの声を積極的に受け止め、検討することにしました。

ベランダ発電の基本コンセプト



ベランダに設置したパネル

部会の中に設置されたベランダ発電検討委員会では、どんなものが求められるか議論を行い、以下のよう

にまとめました。

①まずマンションのベランダで発電するシステムを考える。スタンドやパソコン、コーヒーメーカーの電源およびスマホの充電などに使い、家庭での消費電力の何%かを削減できる程度のものにする。災害時・停電時には非常用・緊急電源として活用できるものにする。

②従って、若干高額になっても、「買った方がいいがほとんど使い物にならなかった」ということのないレベルのものを考える。日本の自然エネ産業の育成という視点から可能な限り日本製品を使う。

③ベランダは洗濯物や布団を干す重要な場であり、また、緊急の場合の避難通路になっている場合が多い。従って、そうした機能を確保できるコンパクトなものが必要。さらに太陽の入射角が大きく変わるので、太陽光パネルの角度と高さを自由に調整できるものが求められる。



ベランダ発電の室内機

さらに太陽の入射角が大きく変わるので、太陽光パネルの角度と高さを自由に調整できるものが求められる。

④台風や突風など風への対策を行うことが必要。

構成はいたってシンプル

ベランダ発電に必要なパーツは、①太陽光を受けて発電するパネル、②太陽光パネルと蓄電装置の間に設置し、両者の間を制御するコントローラー、③太陽光パネルで発電された電気を貯める蓄電装置（バッテリー）、④蓄電装置からの電気を直流から100ボルト交流に変換するインバーター、そして、これらをつなぐコードなどで、作られた電気をあくまでも家庭内で消費するものなので構成はいたって簡単です。

こうしたコンセプトを基に日本橋の電気屋街で各パーツとその機能や価格の調査を行い、パーツを買い揃えて組み立てて試作機を完成させ、12月からは実際に設置して発電量などの試験をしました。

1月16日には説明会

1月16日には「ベランダ発電説明会」を開催しました。ゼロの会の会員やベランダ発電の取り組みを紹介した「大阪民主新報」の記事を見て来たと言う方など



1月16日のベランダ発電の説明会

午後は4人、夜は3人が参加し、試作機についての説明を聞くとともに、活発な意見交換を行いました。

感想では「ベランダ発電の原理・仕組みがよく分かった」「カメラの三脚を使ってパネルの角度や高さを調整する発想はおもしろい」「災害時や野外活動時などに活用できそう」など、意見では「12Vの直流をそのまま使うようにすればインバーターは不要になりもっと安価になるのでは」「商品にして普及するには組み立て式のものがない」「コードの接続は色付けした端子を差し込むだけといった簡単なやり方にすべきだ」などが活発に出されました。

ゼロの会・エネルギー部会では、今後こうした意見なども取り入れながら普及のための方策を検討し、「商品化」について一緒に考え、具体化していただける業者を探していくことにしています。

(エネルギー部会)